

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372700456
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会
事業所名	グループホーム恵寿荘
所在地	津島市唐臼町四反田 2 5 (電 話) 0567-31-0012
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内 2 - 4 - 7
訪問調査日	平成19年9月14日

【情報提供票より】 (19年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	2階建て鉄骨 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一日あたり500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	430 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要 (8月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	3	要介護 2	5		
要介護 3	7	要介護 4	1		
要介護 5	1	要支援 2	1		
年齢	平均 85.7 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安藤病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列病院と母体法人施設に隣接する市内唯一の認知症対応型グループホームである。「明るく、楽しく、やさしく」の運営理念がホーム全体に浸透し、日々の生活の中で実践されている。「馴染みの関係」や「共に過ごし支えあう関係」を大切にしたいホームの方針は、入居前に少しづつホームでの暮らしを体験し、2泊の泊まり利用を経て入居を決める仕組みや、職員の異動が少ない事で可能となり、入居者の安定につなげている。又、隣接する病院との連携を図り、馴染んだホームでの暮らしを出来るだけ長く支えようと取り組まれている。サービスの質向上の為に活発な意見交換が行われ、その中から出た一泊旅行の企画が実現しようとしている。現在「地域交流」を課題とし、小学校、幼稚園との交流の開始やホームだよりの地域への回覧、市から認知症予防介護事業の受託等、課題の具体化が進行中である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	話し合いによって「改善計画」を立て、各項目ごとに具体的な取り組みが行われている。新しい入居者においては馴染みの品を持ち込む働きかけが出来ようになっている。トイレの表示を工夫し、安心と安全の改善につなげている。記録の記入時間を設けることにより記録の内容が充実し、入居者の様子が把握し易くケアプランに反映される仕組みに改善されている。職員の積極的な姿勢は、着実にホームの質向上に役立てられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価について、管理者、職員間での話し合いが良く出来ており、評価内容の意思共有ができています。改善点については、会議やミーティングにおいて話し合いが持たれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市役所、地域包括支援センター、民生委員、家族、管理者がメンバーとなり、ホームでの取り組みや方針についての説明、互いの理解を深める為の情報や意見交換の機会になっている。現在は「地域交流」についての取り組みが話し合われている。例えば市から認知症予防介護事業の委託を受け、隔週水曜日に回想法等を取り入れた「頭の体操教室」を実施したり、幼稚園、小学校との交流を具体化したりと、地域住民にも開かれたホーム作りを目指して取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情申し立て先を記載し、契約時に説明をしている。その文章は玄関先に掲示している。「ホームたより」でも意見、相談、苦情についての対応を呼びかけ、家族訪問時には職員から投げかけを行っている。意見、苦情はミーティングや会議の席で話し合い、対応方法を検討した上で報告を行っている。玄関先には苦情箱が設置してある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「ホームたより」を町内に回覧し、ホームへの理解を深めるきっかけ作りに取り組んでいる。法人が毎年開催する「盆踊り」には多数の地域住民が参加し地域交流の機会となっている。小学生のホーム訪問が始まり、今後は運動会見学、幼稚園との交流等の予定もあり、地域との付き合いの範囲を広める取り組みが徐々に具体化されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、明るく、楽しく、優しく一緒に過ごす」を理念の柱としている。現在、地域密着型サービスとしてのあり方をホーム全体で話し合われており、「地域住民との交流」についての方針と理念に追加する内容を検討中である。	○	地域密着型サービスとしての基本方針を決め、運営理念に反映することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の申し送りや会議において、理念の確認を行っており、職員にもよく浸透し実践されている。「地域との関係」の運営理念追加についても、職員側から積極的に意見が出されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には属していないが「ホームたより」の回覧が町内の理解により行われている。法人が行う「盆踊り」は多数の地域住民との交流の機会となっている。幼稚園との交流、小学生の訪問、運動会の見学等を開始し、少しずつ地域との付き合いの範囲を広める取り組みを行っている。	○	ホーム全体が地域との交流について真剣に考え、取り組もうとしているので、今後も少しずつでよいから、継続して交流の輪を広める取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果から「改善計画」を立て具体的な取り組みが行われている。今回の自己評価についても、管理者、職員間での話し合いが良く出来ており、評価内容の意思共有が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括支援センター、民生委員、家族、管理者がメンバーとなり、ホームでの取り組みや方針についての説明、互いの理解を深める為の情報交換の場として意見交換が行われている。	○	平日の昼間に開催されている為、家族が参加しにくいので、行政側関係者とも調整し、家族も参加できる機会の検討が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から認知症予防介護事業の委託を受け、隔週水曜日に回想法等を取り入れた「頭の体操教室」を実施している。運営推進会議以外でも、日頃から市側と交流や意見交換を出来る関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時には職員から出来るだけホームでの現状や暮らしぶりを話すように心掛けられている。玄関先にはホーム全体と入居者毎のアルバムが置かれ、訪問した家族はホームの様子を知る事ができる。又、たよりの発行も年4回行われている。健康状態については、状態の変化があるとその都度報告がされている。個別のこづかい帳を作り現金の管理をしているが、残高の記入と家族の確認が行われていない。	○	ホームで管理する個別の現金は、残高を定期的に家族へ報告し、金額の確認をしてもらう事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情申し立て先を記載している。契約時に説明をし、玄関先にも掲示している。「ホームたより」でも意見、相談、苦情についての対応を呼びかけている。家族訪問時にも、職員から投げかけを行っている。意見、苦情はミーティングや会議の席で話し合い検討が行われている。玄関先に苦情箱はあるが利用は少ない。	○	ホームに対する意見を直接言いにくい場合があるので、家族や利用者の声を匿名でも受付ける事ができる検討と今ある苦情箱の活用方法を再検討したり、家族アンケートなどの取り組みをするなどの検討が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間の離職や異動は少なく、入居者と職員は馴染みの関係が作りやすい環境にある。異動等に際しては引き継ぎ期間に、ゆとりを持つように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任職員に対する年間の研修計画や新任職員に対する研修計画は立てられていない。隣接する系列法人や法人内研修への参加は行われているが、外部研修の機会、特に認知症ケアに特化した研修の機会が少ない。	○	現任職員に対しては年間研修計画を立てることが望まれる。新任職員には申し伝える事項をマニュアル化し研修内容を検討するなどの取り組みが期待される。認知症ケアのプロとしてのスキルアップを図る為にも、ホームの取り組みとして積極的に専門知識を得る機会作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人のホームとの交流はあるが、認知症対応型グループホームは市内に当ホームのみで、地域でのネットワークづくりが難しい。県や全国組織の同業者ネットワークには加入していない。	○	県のグループホーム連絡協議会や全国組織のネットワークに加入し、他のホームとの情報交換や研修の機会を作り、ホームの質向上に役立てる事が望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、半日程度の試し利用から開始し、最終的には2日間の泊まり利用をし、徐々に馴染みの関係を作った上で、本人、家族の意向を聞きサービスの提供を初めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である入居者から、昔の生活の様子を教えてもらったり、その経験を活かしてもらう場面作りの実践が行われている。見守り支援が心掛けられる中、入居者と職員との思いが通じ合える関係になれるように対応を工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、気づいた事や希望を記録し、職員間でその都度検討、対応を周知している。	○	入居前に意向把握が十分出来ない場合は、入居後の働きかけによって、フェイスシートを充実させ、暮らし方の希望や意向の把握を更に内容あるものにする事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を聞き、アセスメントを行い、仮プランを立て、会議で職員の意見を聞いた上で正式な介護計画を作成している。本人の意向は、日々の暮らしの中での発言や、職員が気づいた事をミーティングや会議において提言する事で盛り込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回の定期的な見直しをすると共に、日々の暮らしの中で職員が気づいた事を申し送りや会議で話し合い、本人や家族の意向を踏まえながら、入居者の現状に即した計画の見直し、作成を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を算定し、職員の看護師や隣接する関連医療機関との協力体制の下、出来るだけ入院を回避し、住み慣れたホームでの暮らしを支えていくことを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連法人の病院が隣接しており、かかりつけ医としての関係を築いている。本人、家族が希望すれば入居前に利用していた馴染みの医療機関への受診も可能で、職員が付き添い支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期についてのホームの方針を説明し「ターミナルケア同意書」を交付している。実際に体調が重度化した場合は、家族、本人の意向を尊重できるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個々の職員が入居者を人生の先輩として尊敬の念を持って対応を行っている。居室不在時に職員が入室する際も、本人の承諾を得てから入る習慣が出来ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおよそのスケジュールは決まっているが、入居者のペースや希望を出来るだけ優先できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設から御飯と汁物以外、持込まれていたのを改善し、9月からホームで調理するようになっていく。食材会社は利用しているが、業者の献立にとらわれることなく、月に数回行事食や入居者の希望、季節を感じさせる献立を独自に工夫している。ミキサー食の入居者に対しても、常食と同じような盛り付けをし、見た目にも美味しくする工夫がなされている。食事も楽しい雰囲気の中、献立に関する懐かしい話等の会話が行われている。	○	ホーム内での本格的な調理を初めて間もない為、入居者の食事作りへの参加や支援がまだ馴染んでいないところがあるので、今後も、少しずつ出番を作る働きかけを継続することが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後に入浴時間があり、1日おきに希望の時間帯に入浴が出来る。体調や本人の希望から入浴できなかった場合は、入浴予定日にとらわれることなく、支援を行っている。	○	各入居者が、希望があれば毎日入浴できるような支援体制を作ることが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、掃除、園芸、野菜作り、洗濯物たたみ、食事の準備等、生活歴を活かした支援を行うと共に、入居者の残存能力や思いを大切にしながら定期的に計算、読書、なぞり書きの支援も行っている。ボランティアによる大正琴演奏の定期訪問、小学生との交流等の他、10月には1泊旅行の計画もあり、ホームでの生活の楽しみごとや気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い時期には、隣接施設の敷地内を散歩する事を日課としている。順番ではあるが、近くのショッピングセンターに出掛け、自由に買い物をする支援も行われている。外出希望があれば、適宜出来るだけ支援できるようにしている。希望すれば馴染みの理美容院へ行く事も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、門扉、玄関、ユニット間のドアも施錠されておらず、職員の見守りによる支援体制が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への直通電話を設置している。毎月、様々なケースを想定して職員が避難経路の確認と防災訓練を行っているが、入居者は参加していない。災害時は隣接する法人施設を避難場所とし、食糧等の備蓄も共有確保されている。地域住民への協力への呼びかけはまだ行われていない。	○	防災対策マニュアルを整備し、防災訓練には、入居者の参加が望まれる。災害時に地域住民の協力を得られるように、運営推進会議などの機会に呼びかけ、具体策を検討することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のおおよその熱量は把握しており、毎食後、食事量、水分量を記録している。職員全員が普段から入居者の体調を意識する習慣づけが出来ており、体調に応じた食事を提供するように努めている。ミキサー食の人に対しても盛り付けや見た目を工夫し食が進むように配慮している。又、便秘予防のために毎日ヨーグルトの摂取を試みている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作品の掲示はさり気なく、食卓に飾られた花や、「おはぎ」を作ったり、「お月見」の行事をする等、五感を刺激し、季節を感じさせる取り組みを行っている。消臭剤の臭いが気になる場合もある。	○	臭いを気にするあまり、消臭剤の臭いが気になる場合があるので、入居者の健康状態を把握する為にも、換気を心がけ、消臭剤の使用は控えめにすることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みの品を持ち込むように、入居前に働きかけを行い、家具や小物の持込が行われている。持込が少ない場合でも写真や入居後の作品を飾り、その人が居心地よく、生活できる居室を作ろうとする取り組みの努力が見られる。	○	今後も馴染みの品の大切さを、継続して家族に説明し、その人らしい暮らしを支える取り組みが期待される。特に新規入居時には十分な説明と協力を依頼する事が求められる。

※  は、重点項目。